日本産業衛生学会
近畿地方会ニュース

発行所　日本産業衛生学会近畿地方会
〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル
中西印刷株式会社（日本産業衛生学会近畿地方会事務局支局）
発行責任者　林　朝茂（地方会長）
http://jsoh-kinki.jp

ご挨拶

近畿地方会長　林　朝茂

平素は学会運営にご協力賜り誠にありがとうございます。昨年の選挙で地方会長に選出頂きました大阪公立大学大学院医学研究科産業医学教室の林朝茂（はやし ともしげ）です。歴代の地方会長の優れた見識と強い指導力を思い浮かべますとこの重責に耐えうるか不安な気持ちですが、会員皆様方とご一緒に、近畿地方会の発展に尽くすことができればと考えております。何卒、皆様のご支援を賜りたくよろしくお願い申し上げます。

この２年間の地方会の体制は、副会長には近畿選出の理事候補者から森口次郎先生（総務・学術・若手活性化）にお願いしました。さらに、近畿選出の理事候補者から、西田和彦先生には総務・財務、学術を、井上幸紀先生には広報を、鈴木順子先生には学術を理事としてご担当して頂くことになりました。さらに近畿選出の代議員の中から19名の方々に、幹事として、総務、財務、学術、広報、若手活性化をご担当頂くことになりました。監事には、森岡郁晴先生と鮫島真理子先生が選出されております。これまで同様に、このメンバーで活発な地方会運営をおこなって参りたいと考えております。

地方会の運営で最大の問題は事務局問題です。森岡先生が会長の際に事務支局を設置されております。これは、森岡先生と中西先生体制の時と同様に貴重な地方会運営システムですので、維持をさせて頂きたいと考えております。それでも、地方会は中央と違って事務職員がいないわけですので、理事と幹事、さらに、地方会会員の皆様のご協力なしに地方会の運営は不可能ですので、ご協力の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

次に、今後の地方会では、何を目標にしていくかです。実は、この２年間、日本産業衛生学会の業務執行理事の仕事をさせて頂き痛感しましたのは、中央より地元での仕事がもっと重要ではないかということでした。地元の活性化なしには学会の将来はないと思うのですが、理事会では地方会に関する議題があがることは、まず、ありませんでした。しかし、今、喫緊の課題は、各地方で若手を育てる環境づくりと地元の活性化ではないでしょうか。近畿地方では、若手を育てる環境づくりに関しては、この２年間は中西前地方会長のもと、新たな試みがなされてきました。これは若手活性化プロジェクト（通称、若活）です。若活は、若活の幹事の皆様のご助力で、今後も近畿地方会にとって極めて重要なプロジェクトに発展すると確信しております。若手だけでなく、もう若手でないと思われている会員の皆様も若活のイベントの際には、是非ご参加ください。地方会の活性化としてもう一つの重要課題は、毎年、秋に行っております近畿産業衛生学会をどのように展開していくかだと考えております。現状では、ご担当頂いております学会長とその施設の方々に多大なご負担をおかけしております。近畿産業衛生学会は近畿地方会の最大のイベントですので、地方会主導で実施できないかと考えております。すぐには難しいですが、来年の滋賀では、じっくりと理事と幹事と4部会の皆様と作戦を練って参りたいと考えております。

今年度も事業計画に沿って有意義なイベントを催していきたいと考えております。会員の皆様の積極的なご参加を賜ります様、何卒よろしくお願い申し上げます。

第71回日本産業衛生学会近畿地方会総会は書面開催とさせていただきます

近畿地方会長　林　朝茂

平素は学会運営にご協力賜り誠にありがとうございます。令和4年10月12日に開催しました地方会幹事会・代議員会で検討しました結果を受け、今年度も6月17日に予定しております第71回日本産業衛生学会近畿地方会総会は書面開催に、学術講演会につきましては担当幹事にて検討しました結果、ハイブリッド開催（リアル＋オンライン）で開催予定とさせていただきます。何卒ご了承の程、お願いいたします。

総会の書面開催につきましては、第1号から第4号議案を本ニュースの該当ページでご確認の上、同封の議決権行使書に賛否をご記入のうえ返送ください。

第1号議案　2022年度近畿地方会事業報告（5頁）
第2号議案　2022年度決算報告（4頁）＊1
第3号議案　2023年度事業計画案（6頁）
第4号議案　2023年度予算案（4頁）＊2

なお、議案に「否」をつけられた方はご質問・ご意見をお願いいたします。gr-med-preventive@omu.ac.jp に5月末日までにお送りください。幹事会で検討し返答させていただきます。

＊1決算について補足いたします。

収入の部では、総会の学術講演会を学会員のみでオンライン開催し、参加登録料収益は0円でした。本部からの地方会会員数に応じて助成される助成金は地方会の源泉徴収分を除いた2,059,666円でした。受取活動費2,337,000円は地方会会員から頂戴する2,000円の活動費1,168名分です。この内1名が2,000円のところ3,000円振り込まれました。また第62回近畿産業衛生学会の残金から振込手数料を引いた631,957円を地方会に返金いただきましたので、雑収益として計上しております。

支出の部のうち事業費では、総会の学術講演会をオンラインで開催し会場費（zoomアカウント料含む）として55,871円を支出しています。諸謝金は総会学術講演会の講演者2名、若手活性化プロジェクトの講演者1名に謝金を支出しています。第62回近畿産衛学会に800,000円を助成金として支出しました。歯科部会が発足し合計4部会になり、それぞれの部会と、1研究会へ助成しました。委託費は総会・学術講演会等がリアルで開催がなかった関係で事務支局の中西印刷への支払いのみとなりました。事務支局費としての880,000円と中西印刷で会費納入状況を確認するための振替受払通知票出力業務として9,845円を支出しました。開発保守費はホームページ運営保守管理費300,000円と近畿地方会サーバーおよびドメイン保守管理費20,000円で例年320,000円を支出しています。このほかに第62回近畿産衛学会のサイトに50,000円を支出しました。（合計370,000円）

支出の部のうち管理費では、理事幹事会費については幹事会をオンラインで開催したことによって、会計監査の費用だけの発生となりました。予算を上回っているのは、2021年度分と2022年度分の2年度分の会計監査会場費を支出しているためです。減価償却費はパソコンの減価償却費で本部の指示に従い2022年度から管理費として42,795円計上しています（2021年3月購入額は171,182円）。役員改選費については選挙の年でしたので、印刷発送物が増え、915,940円を支出しました。また委託費は、会員管理の中西印刷への委託費としての例年支出している会員管理システム保守費用132,000円と、2022年度の本部の会員名簿データ項目変更に伴う会員管理システム改修費用55,000円および事務局業務支援システム仕様変更費用55,000円が必要になり、予算より高くなりました。

＊2予算案について補足します。

本予算は昨年11月に本部に提出しており、総会等のオンライン開催を考え、貸会議室のwebプランを念頭に300,000円予算化しました。ニュース発行は例年通り2回を見込んでおります。近畿産業衛生学会はリアル開催を念頭に昨年に引き続き800,000円を予算化、部会助成金では150,000円×4部会で600,000円を予算化しました。研究会助成金では産業精神衛生研究会に50,000円を予算化しました。管理費ではパソコンの減価償却費を42,795円計上しています。今年は選挙の年ではありませんので役員改選費を30,000円に減額しました。

財産目録では2021年3月22日購入したNECのノートパソコンを記載しております。

■代議員の皆様へ

代議員会も書面開催といたします。代議員用の議決権行使書を同封いたします。総会の議決権行使書と併せて返送お願いいたします。

■幹事の皆様へ

web上の幹事会を開催いたします。別途案内いたします。

第 71 回日本産業衛生学会近畿地方会学術講演会のご案内

日　時：2023 年 6 月 17 日（土）　14：00 ～ 16：45
場　所：Meeting Space AP 大阪淀屋橋
大阪府大阪市中央区北浜 3-2-25
京阪淀屋橋ビル 4F
開催方法：ハイブリッド開催（リアル＋web 開催（Zoom ウェビナー））

今回の学術講演会は、「職場における喫煙対策：新型タバコも含めて」をテーマとして、お二人の先生方にご講演をお願いいたしました。

特別講演 1 では、産業医科大学産業生態科学研究所健康開発科学　教授の大和 浩先生に「法律とガイドラインに添って進める職場におけるニコチン依存症対策」と題して、職場における喫煙対策、受動喫煙対策等の産業保健の現場で実際に役に立つポイント、さらに、職場以外での喫煙対策も含めてご講演を賜ります。大和先生は、職場における喫煙対策の我が国を代表する先生です。有益なお話を頂けると考えております。

特別講演 2 では、宝塚医療大学保健医療学部口腔保健学科　教授（福岡歯科大学・名誉教授）の埴岡　隆先生に、「喫煙 / 歯科口腔疾患 / 生活習慣病－職場からのアプローチ－」と題しまして、新型タバコに関する実践的知識、タバコと歯科口腔疾患、さらに、生活習慣病を代表とする全身疾患と歯科口腔疾患との関係のご講演を賜る予定です。これらの内容は、産業歯科医の先生方だけでなく、すべての産業保健スタッフにも重要で興味ある内容です。埴岡先生は、タバコ対策と予防歯科公衆衛生が御専門で、この分野の我が国を代表する先生です。有益なお話を頂けると考えております。

今回は、近畿地方会としましては、初めてのハイブリッド開催（現地でのリアル開催＋Zoom ウェビナーによる web 開催）を計画しております。詳細は、近畿地方会ホームページとメールにてお知らせいたします。

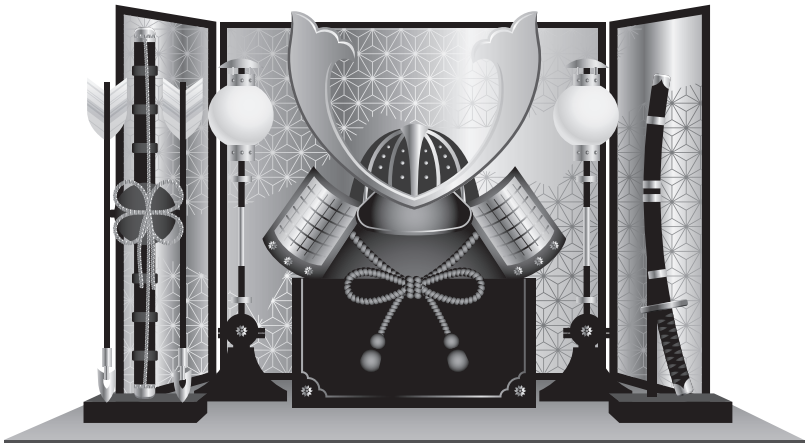
会員の皆様の積極的なご参加をお待ち申し上げております。

〈プログラム〉
テーマ：「職場における喫煙対策：新型タバコも含めて」
特別講演 1（14：00 ～ 15：15）
「法律とガイドラインに添って進める職場におけるニコチン依存症対策」
演者：産業医科大学産業生態科学研究所健康開発科学教授　大和　浩先生
特別講演 2（15：30 ～ 16：45）
「喫煙 / 歯科口腔疾患 / 生活習慣病－職場からのアプローチ－」
演者：宝塚医療大学保健医療学部口腔保健学科　教授　埴岡　隆先生

〈参加費〉
日本産業衛生学会員：無料

〈単位申請〉
日本医師会産業医認定単位：今回の単位はありません。
日本産業衛生学会産業保健看護専門家制度研修：単位申請中

〈申し込み方法・参加方法〉
近畿地方会ホームページに掲載予定です。



2022 年度近畿地方会収支報告および 2023 年度予算

第２号議案、第４号議案

1. 収入の部

科　　目	2022 年度予算額	2022 年度決算額	2023 年度予算額	決算額の備考
Ⅰ　一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
（1）経常収益				
事業収益	**0**	**0**	**0**	
協賛金等収益	0	0	0	
参加登録料収益	0	0	0	総会学術講演会オンライン
受取補助金等	**1,950,000**	**2,059,666**	**1,800,000**	
受取本部助成金	1,950,000	2,059,666	1,800,000	本部からの助成金
受取地方公共団体助成金				
受取負担金	**2,200,000**	**2,337,000**	**2,200,000**	
受取活動費	2,200,000	2,337,000	2,200,000	地方会活動費
雑収益	**50**	**632,007**	**50**	
受取利息	50	50	50	利息
雑収益		631,957		第 62 回近畿産業衛生学会残金返金
経常収益計	**4,150,050**	**5,028,673**	**4,000,050**	

2. 支出の部

科　　目	2022 年度予算額	2022 年度決算額	2023 年度予算額	決算額の備考
事　業　費	**3,900,000**	**3,460,768**	**3,845,000**	
臨時雇賃金	0	0	0	総会学術講演会オンライン
会場費	300,000	55,871	300,000	オンライン会場費、zoom アカウント料など
旅費交通費	10,000	11,080	10,000	オンライン会場出役の交通費
通信運搬費	20,000	3,214	20,000	学術講演会の通信費（郵送代など）
印刷製本費	100,000	69,512	100,000	総会用・代議員会用はがき、ニュース封筒印刷
懇親会費	0	0	0	
消耗品費	5,000	880	0	
機関紙発行費	560,000	566,911	560,000	地方会ニュース印刷発送費
研究費	50,000	0	50,000	
諸謝金	100,000	39,000	100,000	総会学術講演会・若手活性化プロジェクト謝金（3 名）
学会助成金	0		0	
協議会助成金	0		0	
大会研修会助成金	800,000	800,000	800,000	第 62 回近畿産業衛生学会助成金
部会助成金	600,000	600,000	600,000	150,000 円×4 部会
研究会助成金	100,000	50,000	50,000	50,000 円×1 研究会
委託費	880,000	889,845	880,000	事務支局 88 万円＋振替受払通知票出力 9,845 円
開発保守費	370,000	370,000	370,000	HP 関連(32 万円＋第 62 回近畿産衛サイト 5 万円)
雑　費	5,000	4,455	5,000	振込手数料等
管　理　費	**1,096,000**	**1,392,772**	**368,795**	
給料手当	0	0	0	
理事幹事会費	15,000	49,500	15,000	会計監査会場費
旅費交通費	5,000	5,140	5,000	会計監査交通費
減価償却費	0	42,795	42,795	パソコンの減価償却費（本部指示による）
通信運搬費	60,000	62,834	60,000	総会・代議員会用はがき受取手数料
役員改選費	800,000	915,940	30,000	
印刷製本費	80,000	73,573	80,000	活動費振替用紙、封筒印刷費
消耗品費	1,000	0	1,000	
委託費	132,000	242,000	132,000	会員管理システム保守 13.2 万円＋会員管理システム改修 5.5 万円＋事務局業務支援システム仕様変更 5.5 万円
雑　費	3,000	990	3,000	振込手数料等
経常費用計	**4,996,000**	**4,853,540**	**4,213,795**	
当期一般正味財産増減額	－845,950	175,133	－213,745	
一般正味財産期首残高	7,355,835	7,355,835	7,530,968	
一般正味財産期末残高	6,509,885	7,530,968	7,317,223	

財産目録　ノートパソコン NEC LAVIE Direct N21（2021 年 3 月 22 日取得）

2022 年度事業報告

第 1 号議案

1. 第 62 回近畿産業衛生学会の開催
日時：2022 年 10 月 22 日（土曜日）
会場：大阪大学コンベンションセンター
学会長：祖父江友孝（大阪大学大学院医学研究科）
テーマ「職域におけるがん検診」

2. 第 70 回近畿地方会総会および学術講演会の開催
（1）総会　書面開催　賛 481 通､否 2 通､無効 1 通（氏名なし）
（2）学術講演会
日時：2022 年 6 月 18 日（土）web
テーマ「今日からできる化学物質の管理」
講演 1：「化学物質の管理は、どうすればいいのか？～自律管理に向けて～」
演者：NAOSH コンサルティング　中原浩彦
講演 2：「見直してみよう！化学物質管理の基本中の基本」
演者：センクサス産業医事務所　坂本史彦

3. 地方会役員会（代議員会・理事会・幹事会）の開催
（1）書面代議員会　賛 76 通、否 0 通
（2）幹事会：第 1 回　2022 年 7 月 6 日 web、
第 2 回　2022 年 10 月 12 日 web

4. 地方会部会活動
（1）産業医部会
1）第 27 回近畿産業医部会研修会
日時：2022 年 10 月 8 日（土）　場所：ドーンセンター
テーマ「医療機関における産業保健の現状と課題～医師働き方改革の最新動向～」
演者：吉川　徹（労働安全衛生総合研究所）
小森友貴（京都第一赤十字病院）
3）幹事会の開催：第 1 回　2022 年 10 月 25 日　web、
第 2 回　2023 年 2 月 3 日　web
（2）産業看護部会
1）定例研修会の開催
日時：2022 年 1 月 21 日（土）web
講演 1：長井聡里 「働く女性の健康課題と知っておきたい制度」
講演 2：五十嵐千代 「タイトル：産業保健看護の定義と部会名称変更について」
2）幹事会の開催
①全体会議　2022 年 5 月 14 日、2023 年 1 月 21 日
②リーダー会議　2022 年 10 月 7 日、2023 年 2 月 26 日
③執行部会議（部会長・副部会長会議）　2022 年 5 月 8 日
3）メルマガの発行　2022 年 9 月
（3）産業衛生技術部会
1）2022 年度研修会の開催
日時：2022 年 8 月 7 日（日）
場所：中災防　労働衛生総合センター
テーマ「with コロナの時代のセルフケア～ストマネの技法の幅を広げる」
演者：近畿大学総合社会学部　教授　本岡寛子
2）総会
日時：2022 年 10 月 22 日（土）
場所：大阪大学コンベンションセンター
3）幹事会の開催　2022 年 4 月 7 日
（4）産業歯科保健部会
1）総会の開催
日時：2022 年 3 月 5 日（土）　場所：ドーンセンター
2）近畿産業歯科保健部会 研修会
日時：2022 年 9 月 3 日（土）　場所：ドーンセンター
テーマ「人生 100 年時代における歯科からの健康づくり：産業保健での取り組み～」
「超高齢社会における産業保健 フレイル・オーラルフレイルとその対策」
講師：ときわ病院　足立了平
「これからの産業歯科保健：今なぜ歯と口の健康づくりが企業に必要なのか」
講師：日本アイ・ビー・エム健康保健組合　加藤元
3）幹事会の開催
第 1 回　2022 年 4 月 30 日 web、
第 2 回　2023 年 2 月 9 日 web

5. 地方会ニュースの発行
近畿地方会ニュースを年 2 回（126 号～ 127 号）発行。

6. ホームページの更新
地方会ホームページを随時更新し、メールアドレスの登録がある会員宛に研修案内を送るなど地方会会員に迅速に情報を提供した。

7. 研究会、研修会、プロジェクト等
（1）産業精神衛生研究会
1）研修会の開催
日時：2022 年 9 月 7 日（水）　場所：エル大阪南館 5 階
テーマ「人事・労務・総務の役割、産業保健職の役割」
「精神疾患対応において産業医が困ること」
演者：近畿健康管理センター　木村　隆
「産業看護職の役割と連携の取り方について」
演者：Harmony Life work　藤吉奈央子
「会社の人事労務業務における産業保健職の役割と期待」
演者：布留クリニック　山本俊彦
「指定発言」
演者：夏目　誠
2）研究会参加者のアンケート実施
（2）若手活性化プロジェクト
1）研修会の開催
日時：2022 年 7 月 16 日（土）　web
テーマ「これぞ超実践知！これまでとは違う視点から統計を考える：実際の発表者とともに専門家が分かりやすく解説」
解説者：大阪公立大学大学院医学研究科　林　朝茂
発表者：京都工場保健会　山根英之
2）イベントの開催
紅葉の大川ウォーキング＆ワールド・カフェ
日時：2022 年 11 月 12 日（土）
場所：大阪市立住まい情報センター
ワールド・カフェテーマ
① 近畿地方会に若手コミュニティを作ろう！
② 先輩たち、私たち若手をこう育てて！
3）幹事会の開催
2022 年 4 月 14 日、5 月 18 日、6 月 7 日、7 月 4 日、9 月 26 日

8. 役員選挙の実施
（1）代議員選挙
選挙期間 2022 年 9 月 20 日～ 10 月 5 日、代議員当選者　122 名
（2）近畿地方会長・近畿地方会監事選挙
近畿地方会長　林朝茂
近畿地方会監事　森岡郁晴、鮫島真理子
（3）理事選挙
理事　井上幸紀、鈴木純子、西田和彦、林朝茂、森口次郎

9. その他
なし

2023 年度事業計画

第 3 号議案

1. 地方会学会の開催
第 63 回近畿産業衛生学会
日時：2023 年 11 月 11 日（土）
場所：兵庫医科大学
学会長：島　正之（兵庫医科大学大学院医学研究科）
Ⅰ．一般演題
Ⅱ．教育講演
Ⅲ．基調講演
Ⅳ．シンポジウム

2. 地方会総会の開催
書面開催

3. 第 71 回近畿地方会総会および学術講演会
日時：2023 年 6 月 17 日（土）
場所：Meeting Space AP 大阪淀屋橋
開催方法：ハイブリッド開催（リアル +web）

4. 地方会役員会（代議員会・理事会・幹事会）の開催
代議員会
第 1 回　2023 年 6 月 17 日（土）書面開催
第 2 回　2023 年 11 月 11 日（土）兵庫医科大学
幹事会
第 1 回　2023 年 6 月 web で開催
第 2 回　2023 年 8 月 web で開催
第 3 回　2023 年 11 月 11 日（土）兵庫医科大学
第 4 回　2024 年 2 月 web で開催

5. 地方会部会活動
1）産業医部会
（1）第 28 回近畿産業医部会研修会（詳細未定）
日時：2023 年 11 月 18 日
場所：エル・おおさか　南館 5 階　南ホール
テーマ「オンラインを活用した産業保健活動」
基調講演「オンラインを活用した産業保健活動～活用場面と注意点～」
シンポジウム「オンラインを活用した産業保健活動の実際と今後について」
（2）幹事会：年 2 回を予定
2）産業看護部会
（1）定例研修会：on-line・リアル各 1 回予定（詳細未定）
（2）産業保健看護専門家制度「登録者認定試験」実施協力：2023 年 6 月
（3）幹事会：年 3 回以上開催予定
（4）メールマガジン配信（随時）
（5）近畿産業保健看護部会活性化の検討
3）産業衛生技術部会
（1）2023 年度産業衛生技術部会研修会
日時：2023 年 6 月 10 日（土）
場所：阪急グランドビル貸会議室 26 階 5・6 号室
テーマ「With コロナ時代の産業保健の課題～新型コロナウイルス感染症の後遺症に注目して～」
（2）2023 年度産業衛生技術部会総会
第 63 回近畿産業衛生学会会期中（2023 年 11 月 11 日（土））
（3）幹事会の開催
4）産業歯科保健部会
（1）2023 年 8 月～ 9 月に、第 2 回産業歯科保健部会開催予定。現在、講師、日程、場所等、選定中。
（2）幹事会を 3 回、開催予定。

5. 地方会ニュースの発行
5 月と 10 月に発行予定

6. ホームページの更新
地方会ホームページを随時更新し、地方会会員に迅速に情報を提供する。

7. 研究会、研修会、プロジェクト等
（1）産業精神衛生研究会：
1 回 / 年　開催予定（11 月頃）
令和 4 年度産業精神衛生研修会後のアンケート収集結果より、次回希望テーマを設定する。
（2）若手活性化プロジェクト：実施方法など検討

8. その他
近畿産業衛生学会優秀演題賞の選考

報告事項

監査報告

私達は令和 4 年度の経理における近畿地方会の職務の遂行を監査するため、地方会長と事務局員から事業の報告を聞き、重要な経理関係書類を閲覧し、その他必要と思われる方法を用いて監査した結果、次の通り報告します。

1．　令和 4 年 3 月 1 日から令和 5 年 2 月 28 日までの収支報告書に記載された、令和 4 年事業年度の収支は適正に表示されているものと認めます。
2．　事務局の職務遂行に関する不正の行為、または法令もしくは定款に違反する事実の有無については、指摘すべき事実はなく、適切かつ効率的な職務遂行がなされたものと認めます。

以　上

公益社団法人　日本産業衛生学会
近畿地方会

令和 5 年 3 月 18 日
監事　[illegible]

令和 5 年 3 月 18 日
監事　鮫島 真理[illegible]

監事からの意見とその回答
1. ホームページ委託業者の合い見積もり結果を総会で報告すること。
（回答）現委託業者以外に、2 社の見積もりを行ったが、ともに現状より高額であった。
2. 3 年に一度くらいホームページの委託業者の合い見積もりをすること。
3. 残余金の使い方について、コロナ禍で特別な事情があった(ので増えた) が、どのように会員に還元するか検討すること。
（回答）日本産業衛生学会は公益社団法人であり、余剰金を学会員に還元できない。しかし、経常収益を減らす目的で学術講演会等で学会員の参加費を無料にすることも考慮することとする。

2022年度日本産業衛生学会　近畿地方会役員選挙結果報告

近畿地方会選挙管理委員会　委員長　出雲谷　恭子

今選挙では近畿地方会の選挙人（有権者）は1215名、このうち選挙権及び被選挙権保有者は1081名のため、中央選挙管理委員会から割り当てられた役員数は代議員122名でした。近畿地方会細則に従い地方会会長および地方会監事は推薦および立候補者を募りました。その結果、地方会会長候補1名、地方会監事候補2名と定数であったため、無投票当選となりました。代議員選挙を電子投票で実施、開票作業は2022年10月7日に行い新代議員を122名選出しました。投票率は38.0%でした。尚、選挙細則に従い、くじで順位を決定しております。

理事候補5名の選出は代議員の互選により電子投票で行い、109名より投票がありました。開票作業は2022年11月25日に行いました。なお、今回選出した理事候補者は、2023年度日本産業衛生学会総会の承認を得て理事となります。

■近畿地方会　会長

（敬称略　定員1名）

氏　名	
林　朝茂	無投票当選

■近畿地方会　監事

（敬称略　定員2名）

氏　名	
鮫島　真理子	無投票当選
森岡　郁晴	無投票当選

■近畿地方会選出理事候補

（敬称略　定員5名）

氏　名	得票数
森口　次郎	78票
林　朝茂	69票
西田　和彦	47票
井上　幸紀	46票
鈴木　純子	40票
岩根　幹能	40票（次点）

■近畿地方会　代議員

（敬称略　定員122名）

氏　名	得票数
岩根　幹能	57票
伊藤　正人	56票
津田　由紀	47票
村田　理絵	41票
中井　栄	35票
森口　次郎	35票
大塚　創平	35票
内山　鉄朗	34票
鈴木　純子	34票
深井　恭佑	34票
中西　麻由子	32票
久保　とし子	32票
荒木　郁乃	32票
大島　由美子	32票
櫻木　園子	32票

■近畿地方会　代議員

（続き）

氏　名	得票数
久保田　昌詞	32票
出雲谷　恭子	32票
上原　新一郎	31票
萩原　聡	31票
西田　和彦	31票
長見　まき子	31票
橋口　克頼	30票
藤田　周弥	30票
守山　敏樹	30票
中村　千賀	30票
橋場　昌義	29票
一尾　直子	29票
木曽　真一	29票
篠原　將貴	29票
黒木　和志郎	29票
林　朝茂	29票
佐藤　恭子	29票
安田　恵理子	29票
平田　真以子	28票
谷池　正行	28票
森　貴大	28票
豊川　彰博	28票
大上　圭子	28票
井上　幸紀	28票
原　達彦	28票
西川　佳枝	28票
寳學　英隆	27票
猪阪　善隆	27票
中嶋　千晶	27票
石神　眞人	27票
佐藤　洋	27票
坂本　史彦	27票
田中　紀子	26票
濱田　千雅	26票
河津　雄一郎	26票
康　秀男	26票
中田　ゆかり	26票

氏　名	得票数
山本　博一	26票
清原　達也	26票
垣本　洋希	26票
柴田　泉	26票
村嶋　美保子	26票
久井　志保	25票
魏　民	25票
日野　孝	25票
柴田　幹子	25票
吉川　貴仁	25票
竹内　靖人	25票
三浦　克之	25票
今川　かおる	25票
今野　英一	25票
前田　宏明	24票
白川　真紀子	24票
藤吉　奈央子	24票
森本　道雄	23票
出口　宏美	23票
小村　江美	23票
由田　克士	23票
上田　晴三	22票
堤　梨恵	22票
金山　周次	22票
國枝　佳祐	22票
喜多岡　蓮美	22票
藤田　智子	22票
原　共乃	22票
東　賢一	22票
谷口　有紀	22票
林田　千雅子	21票
松下　尚生	21票
米永　哲朗	21票
小室　竜太郎	21票
祖父江　友孝	21票
天野　和代	21票
貝森　亜紀	20票

氏　名	得票数
石原　宗和	20票
益江　淑子	20票
相羽　洋子	19票
吉田　直樹	19票
岡田　潮	19票
三木　明子	19票
大橋　正和	19票
白石　雅照	19票
出口　裕彦	19票
津田　恵理	19票
池田　雅彦	19票
森　雅子	18票
奥野　優	18票
三柴　丈典	18票
清水　政彦	18票
和田　ゆき恵	18票
城徳　昭宏	18票
瀧　秀樹	18票
八木田　あけみ	18票
橋本　克次	18票
三宅　晴香	18票
森山　和郎	17票
竹下　達也	17票
中西　一郎	17票
杉浦　徹太郎	17票
寺澤　嘉之	17票
栗原　敏修	16票
中村　忍	16票
岩崎　進一	16票
後藤　浩一	16票
前山　美佐子	15票
藤井　宏	15票
森脇　博	15票
和久　純也	15票（次点）
衣斐　義高	15票（次点）
岡本　昭夫	14票（次点）
垰田　和史	14票（次点）

第62回近畿産業衛生学会開催のご報告

大阪大学大学院医学系研究科・環境医学
第62回近畿産業衛生学会　学会長　祖父江　友孝

第62回近畿産業衛生学会の学会長を務めさせていただきました大阪大学大学院医学系研究科環境医学の祖父江友孝です。私は、大学卒業以来、一貫してがんの疫学に取り組んでおり、がん検診の有効性評価・精度管理には特に深くかかわってきました。そこで、本学会のテーマを「職域におけるがん検診」とさせていただきました。

本学会は、前々回は中止、前回はオンライン開催となり、多くの方が現場での開催を期待されている中、令和4年10月22日土曜日に大阪大学コンベンションセンターで無事に現地開催することが出来ました。当日は晴天にも恵まれ、産業衛生に関わる多くの方々にご参加いただき、最終的に236人にも達しましたこと厚く御礼申し上げます。

朝から行われた一般演題については計17演題も集まり、発表テーマは多岐にわたり、産業保健活動のみならず、COIVD-19、がん検診、ストレスなど興味深いテーマに触れることのできる広範囲な学びの場となりました。一般演題の発表は3つの部屋に分かれて、演者の先生方と座長ならびに会場の参加者の先生方との活発な議論が交わされ、お互いに産業衛生に関わる様々な新しい知識の研鑽が出来たと思います。この17演題の中から、優秀演題賞には「女性の月経を考慮した大腸がん検診のあり方」をテーマに発表された森野亜弓先生（平和堂健康サポートセンター、滋賀医科大学臨床看護学講座）、若手奨励賞には「コロナ重症患者受け入れ病院の医療従事者におけるワーク・エンゲイジメントとその関連要因について～職種・経験年数でのワーク・エンゲイジメントの比較～」をテーマに発表された須磨知美先生（済生会千里病院）が、厳選な選考の結果の上で受賞されました。この場を借りて改めてお祝い申し上げます。

基調講演では「職域のがん検診の利益･不利益」をテーマと私自ら講演する機会を持ちました。予防や検診は治療と同じように､不利益を被る人が一定割合存在します。長年がん検診にかかわってきて、がん検診による不利益を理解することが、がん検診を進めるに当たって最も重要な点として概説するとともに、職域のがん検診の今後のあり方についても述べさせていただきました。

シンポジウムでは「職域のがん検診の最前線」をテーマに、様々な立場の方々にシンポジストとして加わっていただきました。研究者の立場から摂南大学農学部の小川俊夫先生、歯科医師の立場から大阪大学大学院歯学研究科の天野敦雄先生、検診医の立場から京都工場保健会の長谷川暢子先生、保健師の立場から三菱ケミカルグループの重松美智子先生、保険者の立場からジャパンディスプレイの川畑知江子先生であり、5人の演者の方にそれぞれの立場で職域のがん検診についてお話しいただき、多くの参加者の先生方に職域のがん検診の現状と課題に対する多角的に理解を深めていただけたと考えます。

教育講演として、大阪大学大学院医学系研究科感染制御医学講座の忽那賢志先生に「産業医が知っておくべきCOIVD-19の最新知識」をテーマにご講演いただきました。COIVD-19の分子生物学的な特徴から臨床経過、また治療薬からワクチンに至るまで、COIVD-19についての幅広く奥深い知識をご紹介いただきました。その内容について、会場の先生方から忽那先生へ多くの質問が寄せられ、講演後も列をなして質問されている状態で、盛会のうちに本会を終えることが出来ました。

最後になりますが、COIVD-19の流行は未だに完全には収束してはおらず、本会でも感染予防の観点からランチョンや懇親会などを見送らせていただきました。しかしながら、今後の近畿産業衛生学会では、通常の通りの開催形式に戻っていくものと思われます。次回の第63回の近畿産業衛生学会では、兵庫医科大学公衆衛生学講座の島正之学会長が主宰されますが、近畿における産業衛生についての学びの場ならびに交流の場をさらに展開されると確信しております。

第 62 回近畿産業衛生学会の報告

第 62 回近畿産業衛生学会優秀演題賞を受賞して

（株）平和堂・健康サポートセンター
森野　亜弓

この度は名誉ある賞をいただき、誠にありがとうございます。選考委員の先生方はじめ学会関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

本演題では保健師実務の中での課題解決に向けた取り組みを実践報告として発表させていただきました。大腸がん検診は精査率向上が重要ですが、精査未受診の理由として月経中を挙げる社員も多かったことから、40 代女性社員の便潜血検査の受診状況を検討したところ、本来は対象外とされる月経中の便潜血検査受検者が約半数いました。また、便潜血検査の陽性率は月経中で 10.6% と月経期間外 3.9% と比べて有意に高いことが示されました。後日談になりますが、本結果を根拠として、月経期間外に便潜血検査を行う機会を別途提供するため、郵送大腸がん検診を導入するに至りました。

今回の受賞を励みに、今後もデータを活用し、科学的根拠に基づいた産業保健活動を実践していきたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

第 62 回近畿産業衛生学会の報告

第 62 回近畿産業衛生学会若手奨励賞を受賞して

済生会千里病院
須磨　知美

このたびは若手奨励賞の栄誉を賜り、誠にありがとうございます。本研究のため、ご指導頂きました丸山総一郎先生とご協力いただいた医療従事者の方々に心より感謝申し上げます。

本研究は、COVID-19 感染症が拡大するなか、過酷な環境下においても医療従事者の高いレジリエンスによって医療が提供されている現状を目の当たりにし、医療従事者のワーク・エンゲイジメントについて明らかにすることで、ポジティブ・フィードバックにすることが出来ないだろうかと思い、始めました。その結果として、職種や経験年数でのワーク・エンゲイジメントと疲労度の違いが明らかになったことで、COVID-19 対応者、非対応者ともに、病院全体で各々のワーク・エンゲイジメントを活かし、一丸とって取り組んだことを示せたと考えております。

今回の受賞を励みにして、今後とも医療従事者の産業衛生のために活動し、医療を提供する側のケアについて取り組んでいきたいと思います。

第 62 回近畿産業衛生学会の報告

基調講演とシンポジウムを拝聴して

大織診療所
清原　達也

2022 年 10 月 22 日、久々にリアルで開催された第 62 回近畿産業衛生学会に参加しました。会場は私の大阪大学勤務時代に医学生の臨床実技試験（OSCE）の会場としてよく利用した大阪大学コンベンションセンターで、とても懐かしかったです。共同演者の発表があって朝の一般演題から参加しましたが、厳しい質問もなく穏やかに終わって安堵しました。祖父江会長の基調講演「がん検診の利益・不利益」は、がん検診の施策の歴史に始まり、エビデンスもなく福利厚生として実施されている職域がん検診の不利益について解説されました。不利益としては過剰診療、生命予後に影響しないがんを見つけて治療している問題について、小児神経芽腫検診などの具体例を挙げて解説されました。そして法的根拠のない職域がん検診を適正に実施するためには、保健者が所有するレセプトデータなどを活用してエビデンスを蓄積し、精度管理の水準を高めることが重要であるとの結論で締めくくられました。昼食は事前予約でお弁当が配布されましたが、私は工学部福利厚生棟の食堂、ファミールまで足を運び、学生さんに交じってカレーをいただきました。午後の代議員会・表彰式の後で、シンポジウムを拝聴しました。シンポジウムは「職域がん検診の最前線」をテーマにして、立場の異なる 5 名のシンポジストが発表し討論されました。天野先生は歯科医師の立場で口腔がん検診の重要性を強調され、長谷川先生は婦人科医 / 産業医の立場で職域がん検診の問題点、特に乳がん検診や子宮がん検診を具体例に挙げて発表されました。重松先生は保健師の立場で自社が行っているがん検診について報告されました。小川先生と川端先生は、それぞれ研究者の立場、保険者の立場で、職域がん検診の精度管理におけるレセプトデ活用の実情と今後の方向性について話をされましたので、とても理解が深まったように思います。私も健診機関に勤務していて職域がん検診にも関わっているので、大変勉強になる学会でした。

第32回日本産業衛生学会全国協議会の報告

第 32 回日本産業衛生学会全国協議会に参加して

（医）米永会・米永歯科医院
米永　哲朗

2022年9月29日から10月1日まで、札幌コンベンションセンターで開催された第32回日本産業衛生学会全国協議会に参加しましたのでご報告させていただきます。

コロナ禍、ハイブリッド形式で開催されましたが、私は現地でリアルに参加してきました。感染対策をしつつの参加でしたが、直接発表内容を聴くことができ、臨場感も伝わり、大変有意義であったと思います。

最も広い第1会場で行われていた特別講演4では、「組織における人材育成・神コーチング流」と題して、元北海道日本ハムファイターズヘッドコーチで侍ジャパンヘッドコーチの白井一幸氏のお話がありました。広い会場でしたが、演者の巧みな話術で聴衆を引きつけ、「指示・命令・恫喝では部下の能力は発揮できない。部下が気づき自ら動いた時にこそ能力が発揮される」という内容に、ただただうなずくばかりでした。実際に結果を出されているお話ですので、かなり説得力のある人材育成術であったと思われます。

私自身、歯科医師である為、どうしても口腔関連の会場に足が向くことになりました。折しも、2022年10月1日は労働安全衛生規則の一部を改正する省令が施行される日であり、その同日に第4会場で、「これからの歯科特殊健康診断　―その考え方と実際―」という内容の研修会がありました。

歯科については、塩酸、硫酸、硝酸、亜硫酸、フッ化水素、黄リン、その他歯や支持組織に障害を起こす化学物質について、歯科特殊健康診断の実施が義務付けられていますが、2022年10月からは、労働者の数に関係なく、所轄労働基準監督署長に報告するよう義務化されました。

このことは、歯科特殊健康診断は、今までのような酸蝕症検診を改め、労働衛生管理としての健康診断を行うこととし、具体的には、酸蝕症に拘泥することなく広く口腔領域を診査し必要に応じて作業環境管理、作業管理対策を考えていくということで、労働者の健康の確保に、より一層貢献するという、重い責任が課せられたと理解しております。

今回の大会に参加させていただき、コロナという脅威に対策しつつ、各職種、組織の壁を超えて活動していくことの重要性を改めて認識させられたことは大変有意義でありました。

関係者の皆様に感謝申し上げます。

産業医部会からのお知らせ

第 27 回産業医部会研修会を終えて

なかにしヘルスケアオフィス
中西　麻由子

2022年10月8日（土）「医療機関における産業保健の現状と課題～医師働き方改革の最新動向～」をテーマに近畿産業医部会研修会を開催致し、131名の方に参加頂きました。

2021年総務省統計局の労働力調査によれば、医療福祉従事者数は就労人口の約13%であり、2025年で約15%、2040年には約19%が必要との推定があります。医療従事者が安心して働くことができる業界でなくてはならず、産業保健の果たす役割の大きな分野と考えます。

2024年4月から医師の時間外労働規制が適用され、「医師の働き方改革」が具体的に動き始めています。そこで日本医師会・厚生労働省で医師長時間労働問題の検討委員を長年務められている吉川 徹先生（労働安全衛生総合研究所 過労死等防止調査研究センター センター長代理）に基調講演頂きました。医療従事者を取り巻く安全と健康のハザードを提示され、医療福祉従事者の労災認定の概要、勤務医健康課題の歴史的社会的背景を踏まえた現在の医師働き方改革の流れと課題について整理頂きました。

また「医療従事者のための産業保健研究会」の世話人をされている小森 友貴先生（京都第一赤十字病院　産業医）に医療機関での実際の産業保健活動や医師働き方改革の現状について具体的にご提示頂きました。

会場からの活発なご発言もあり、経営との両立の難しさ、自己研鑽の取り扱いの難しさなどご指摘頂きました。医療機関は強い縦社会が存在しつつ個人の意思が尊重される職人集団という組織特性があり、トップダウンからのコンプライアンス遵守の強いメッセージと従業員への繰り返しの説明が大切だと感じました。企業の産業保健の横展開ではなく、多様な専門家の集合体という特徴を生かした医療界独自の安全衛生の仕組みで進めていくのが良いのかもしれないとも思いました。

時流を知り、医療業界の未来を考える時間となり、すべての働く人に産業保健が届くために学会員として取り組む一歩となったかと思います。

若手学会員活性化プロジェクト

「第２回紅葉の大川ウォーキング＆ワールド・カフェ」開催報告

日本製鉄関西製鉄所／ NS メディカル・ヘルスケアサービス
岩根　幹能

聞くだけの孤独なオンライン学会が主流となる中、2022 年 11 月 12 日に大阪市立住まい情報センターでのリアル参加型企画を実施しました。学会という共通の価値を持つ場所で、多職種の若手学会員が交流するものです。16 人が参加し、産業保健経験 10 年未満が 12 人（うち、5 年未満が 8 人）でした。まずは「近畿地方会に若手コミュニティーを作ろう」というテーマでディスカッションしました。出てきた意見を紹介します。参加者の皆さんは「つながり」を求めています。地理的な近さ（ご近所企業マップ作成という意見も）、絞られたテーマに興味を持つ人が集っての対話、保健看護職一人職場といった同じ立場の人とのつながりです。そして、つながりが強化されていくことを求めていて、定期的な勉強会、懇親会、レクリエーションの幅を広げては？といった意見がありました。ネットワークの広がりを求める一方、小グループで顔が見える関係性が失われることに抵抗があるとの意見も出ました。あっという間の 2 時間の後、肩の力を抜いてフリートークをしながら大川沿いを 3.5 km 歩き終了しました。アンケート結果は好評で、全員がまた参加したいという結果でした（1 人は「少し参加したい」）。参加者のご希望に沿い、メーリングリストを作りましたが主催者のリードミスで活用されていないのが反省点です。今年度も第 3 回目を開催しますので、ぜひご参加ください。

受賞おめでとうございます。

緑十字賞受賞に寄せて

大阪ガス（株）・人事部
Daigas グループ・健康開発センター
濵田　千雅

第 81 回全国産業安全衛生大会において、緑十字賞をいただきました。これまでご指導いただきました岡田邦夫先生、豊川彰博先生、林朝茂先生、そしてご支援を賜りました近畿地方会の先生方ならびに職場の同僚など、関係するすべての皆様に深く感謝申し上げます。

医師一年目の私は大阪市大（現、大阪公立大学）の第二内科で学ばせていただきました。内分泌の大家・循環器・血液・消化器・リウマチ・神経の専門家がおられ、様々な分野の内科的な基礎を教えていただき、産業医業務においても非常に役立っております。その後、環境衛生学教室（大学院）に進み、厚労省の研究班のお仕事や職域前向きコホート研究をテーマに学ばせていただきました。この時に初めて産業医という仕事を知り、院生の頃、コンサルタント会社の嘱託産業医としてデビューをしました。当時は長時間労働者面談が多かったことを思い出します。その後、数社の嘱託産業医をしながら、内科医として患者さんの人生の QOL 向上のお手伝いしておりました。

2008 年、何の気なしに受けた労働衛生コンサルタント資格取得を機に岡田先生から専属産業医としてお誘いをいただき、父から受け継ぎかけた開業医の道を閉じ、現在に至ります。産業医はその人の生き方に触れる仕事、人を育てる仕事でもあり、臨床医も楽しかったですが、よりやりがいを感じています。今年で臨床医として 15 年、専属の産業医として 15 年、来年からは産業医としての医師キャリアの方が長くなります。VUCA の時代、正解のない道を進むうえで、産業保健にかかわるものとして、これからもしっかり球体思考を学び、従業員さんの生き方に寄り添い、人生の支えとなり、そして、人を大切にすることで企業が成長し、社会の発展に寄与することができればと思います。

今後ともご指導ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。

第 63 回近畿産業衛生学会のお知らせ（第一報）

第 63 回近畿産業衛生学会長
（兵庫医科大学医学部公衆衛生学）
島　　正之

新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、私たちを取り巻く社会は大きく変化しましたが、産業保健活動にも大きな影響があり、在宅勤務の増加等によるメンタルヘルスなどが問題となってきました。現在、コロナ禍で制限されていた社会経済活動は徐々に再開されつつありますが、2024 年 4 月に開始予定の働き方改革では医師、建設業、運送業の時間外労働の上限が規制され、コロナ禍で疲弊した産業保健の現場での対応が求められます。

こうした中で、ポストコロナ時代における産業保健活動のあり方について議論できる機会にしたいと考えています。4 年ぶりに懇親会も開催する予定ですので、多くの皆さまのご参加を心よりお待ちしています。

1. 日時：2023 年 11 月 11 日（土）

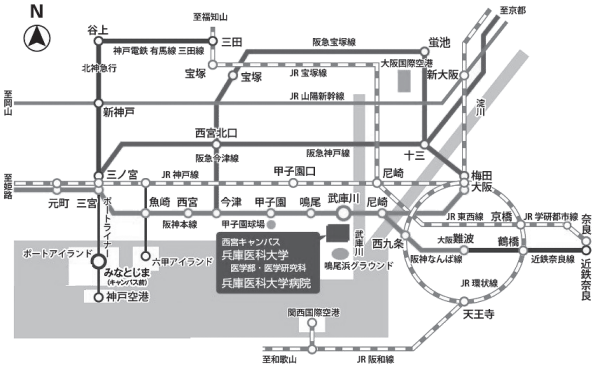
2. 会場：兵庫医科大学　西宮キャンパス

〒 663-8501 兵庫県西宮市武庫川町 1 － 1

■ 阪神電鉄・武庫川駅下車、西出口より徒歩 5 分

■ JR 甲子園口駅下車、タクシーで約 10 分

【西宮キャンパスまでの交通経路】



3. テーマ：ポストコロナ時代の産業保健

4. 内容（予定）

1）一般演題（口演）
　申込み締切：2023 年 9 月 1 日（金）
　優秀演題賞、若手奨励賞を表彰

2）教育講演
　「職場のパワハラと防止策について」（仮題）
　演者：津野香奈美（神奈川県立保健福祉大学准教授）

3）基調講演
　「産業保健現場のコロナと「次」の課題～メンタルヘルスを含めて～」
　演者：勝田吉彰（関西福祉大学社会福祉学部教授）

4）シンポジウム
「ポストコロナ時代の働き方改革とメンタルヘルス」（仮題）
※日本医師会認定産業医、産業保健看護専門家の研修単位認定申請中

5）企業展示（予定）

6）懇親会：学会終了後に学内のレストランにて開催予定ですが、新型コロナ感染状況によっては中止する可能性があります。詳細はホームページでお知らせします。

5. ホームページ：https://jsoh-kinki.jp/jsohkinki-63/

6. 事務局：兵庫医科大学医学部公衆衛生学講座
　第 63 回近畿産業衛生学会事務局
　TEL：0798-45-6566 ／ FAX：0798-45-6567
　E-Mail：kinki63@hyo-med.ac.jp

編　集　後　記

新型コロナウイルス感染症（コロナ感染症）に関連し、去る令和 5 年 3 月 13 日からマスク着用が「個人の判断」に委ねられるようになりました。5 月 8 日にはコロナ感染症が２類から５類に移行します。コロナ感染症との付き合い方も今後大きく変わっていきます。

コロナ感染症が職域に及ぼす影響としてメンタルヘルス不調を例にとると、未知の感染症への恐怖、在宅勤務などへの不適応、孤独感などの増強、感染症対策への疲れなど、時間とともに推移しています。今後も職域への影響とその対策を検討する必要があります。

この 3 月から、近畿地方会の体制は中西一郎地方会長から林朝茂地方会長へと引き継がれました。未曾有のコロナ禍で多大なご指導いただきました中西地方会長に心より御礼を申し上げます。引き続き林地方会長のもと、新たな社会情勢に合わせて産業衛生活動が行われ、近畿地方会ニュースで実り多い情報を発信させていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。　（井上　幸紀）

編集委員（50 音順）
井上　幸紀（担当理事）　清原　達也（当番編集長）
谷池　正行　村田　理絵